

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表:令和2年 3月 29日

事業所名:児童発達支援事業所 まふいん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		小集団、中集団での療育を行うために人数にあった空間を使い分けている。また、感情が高ぶった際のクールダウンの部屋(学習室)なども確保している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		まふいんでは厚生労働省より定められている基準配置人数よりも多めの職員人数を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		段差に関しては極力なくすように心がけている。全職員が情報を共有できるように日頃のミーティングを強化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		活動終了後、アルコール消毒を行っている。また、活動内容を踏まえ部屋の広さ、配置の工夫などを行っている。	引き続き活動終了時にはアルコール消毒を行う。加湿器を購入し感染対策を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		職員会議だけに限らず日々のミーティングや打合せを行っている。また職員との面談を通じて個々の目標に関しても振り返りを行っている。	職員全員が業務内容を把握し、確認できるように見える化した上で、職員会議などにより業務改善に向けた取り組みを話合う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		自己評価だけでなく日頃から保護者の意見を把握し、業務改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページにて公開し保護者にも通知している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		理事や監事の皆様、療育アドバイザーに適宜評価をいただき、評価結果を業務改善に繋げている。	第三者評価を今後受ける予定。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		外部研修だけでなく内部研修にてプレゼン発表、事例検討などを行い、研修の機会を確保している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		アセスメントツールを活用し、保護者とのモニタリングを通して計画書を作成している。	個々の分析スキルを向上させるため、職員全員で共通の本を配布した。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		市役所に許可をもらい、まふいんのアセスメントシートを使用している。	アセスメントツールの中身を職員会議や職員研修などで解説し、職員全員で内容を周知する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		ガイドラインの項目に沿った個別支援計画書を作成し、個々のニーズに沿った支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		個別支援計画を意識した活動内容を提案し実施している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		活動計画はチームで立案を行い、日々の振り返りにて評価、改善している。	来年度は職員全員で教材研究や教材開発ができる時間を設け、チーム一丸となったプログラム作りを行う。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		日々の人数や児童らの特性を考慮し毎回プログラムを変え、職員も更なる一歩を求め自己研鑽している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		個々の発達段階や個人の課題に対して集団療育、個別療育を組み合わせている。	子ども自身の特性を十分把握し、他事業所とも連携を図ることで個別、集団の活動計画を行っていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		作戦ボードを利用し児童の行動の予測を踏まえた打合せを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		活動終了後は毎回フィードバックをしている。	職員間での打合せ、振り返りの内容をより濃密なものにするために具体的な対応を話合う。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日誌は毎日書き、重要な事案に関してはミーティングを行い見直し、再検討をしている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		保護者とは定期的にモニタリングを行い、アセスメント後個別支援計画を見直している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には職務に適した職員が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		電話や自主公開療育、直接出向くことで密な連携を行っている。	案件があった場合には迅速な対応を行えるように顔つなぎを行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○	受け入れなし	医療的ケアや重症心身障害のある子どもなど最大限の受け入れ努力を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○	受け入れなし	受け入れた際には迅速な連絡を図れるようにフェイスシートなどの活用を行う。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		保育所等訪問支援を通じて支援内容の確認と支援のすり合わせを行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		保育所等訪問支援だけでなく学校に赴き個別支援計画や情報共有シートをもとに相互理解の機会を設けている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		公開療育、見学会、研修等を通して他事業所とも連携を図っている。並行利用通園児についても、情報の共有を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	長期休み期間を利用し、保育園に行くなどの交流を通して障害のない子どもと活動する機会を設定している。	法人内だけでなく近隣の子ども園などに許可を得て園庭で遊ばせてもらうなど、垣根を超えた対応ができるようにしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		各機関からの研修、会議案内には極力参加できるようにしている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		口頭、電話、メール、面談を通してまふいんでの様子を丁寧に説明している。	来年度は連絡アプリを導入し、より丁寧な支援を行う。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		迎えに来た際や個別の面談を通して、自宅での対応方法をアドバイスしている。	ペアレントトレーニング研修を職員が受講し、実践していく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に必ず行っている。	分かりやすい説明を心がけ、職員同士でもロールプレイを行う。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		面談を行い個別支援計画の説明をしたうえで同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		相談などがあった場合、個別の面談を設け支援の方向性を確認し、必要に応じて助言を行っている。また、その後のアフターフォローまで行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		就学教育相談説明会や保護者向け研修、3月実施予定のまふいん活動報告会などを通じて支援を行っている。	保護者同士が連携を図れるように小規模な懇談会などの設定を行う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談に関してはその都度受け入れている。苦情委員会を整備し迅速に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月まふいん便りを保護者に配布するとともにホームページにて活動を報告している。活動変更時にはメールにてお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		写真や業務上知りえたことについては職員会などで定期的に確認している。研修などを通して職員へも個人情報保護法の周知、徹底を行っている。	内部研修などで使用する写真などについてもその都度確認を行う。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		電話やメールにてできる限りの情報共有、情報伝達に努めている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		ナガヤタワーの住人の方と季節の行事などを行なっている。	
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練(10月に実施)、防犯訓練などを行っている。新型コロナウイルスの予防、発生時のフローチャートを作成している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練(10月に実施)、防犯訓練などを行っている。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		子どもの情報をできるだけ具体的に把握できるようにフェイスシートを用いて確認を行っている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーに関しては事前に保護者と確認を行い、緊急時に対応する医療機関も事前に把握している。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ファイルを作成し職員会で全職員と情報を共有している。また原因を追究し、改善点を話合っている。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		人権擁護、虐待防止担当者を決め毎年研修に参加させている。又、職員会などでも周知している。今年度は法人全体での研修も実施した。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	当事業所では身体拘束は行わない。	危険を感じた際の事業所の対応を面談や見学を通じて丁寧に説明していく

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

【放課後等デイサービス】

公表:令和3年 3月 29日

事業所名:

児童発達支援事業所 まふいん

	チェック項目	はい	どちらとも いえない		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
			はい	いいえ		
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			小集団、中集団での療育を行うために人数にあった空間を使い分けている。また、感情が高ぶった際のクールダウンの部屋(学習室)なども確保している。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○			まふいんでは厚生労働省より定められている基準配置人数よりも多めの職員人数を配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			段差に関しては極力なくすように心がけている。	
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			職員会議だけに限らず日々のミーティングや打合せを行っている。また職員との面談を通じて個々の目標に関しても振り返りを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			自己評価だけでなく日頃から保護者の意見を把握し、業務改善に努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページにて公開し保護者にも通知している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			理事や監事の皆様、療育アドバイザーに適宜評価をいただき、評価結果を業務改善に繋げている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			外部研修だけでなく内部研修にてプレゼン発表、事例検討などを行い、研修の機会を確保している。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			アセスメントツールを活用し、保護者とのモニタリングを通して計画書を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			市役所に許可をもらい、まふいんのアセスメントシートを使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			活動計画はチームで立案を行い、日々の振り返りにて評価、改善している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			日々の人数や児童らの特性を考慮し毎回プログラムを変え、職員も更なる一歩を求め自己研鑽している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇などは普段の活動ではできないような体験的な活動を取り入れている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個々の発達段階や個人の課題に対して集団療育、個別療育を組み合わせている。	
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			作戦ボードを利用し児童の行動の予測を踏まえた打合せを行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			活動終了後は毎回フィードバックをしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日誌は毎日書き、重要な事案に関してはミーティングを行い見直し、再検討をしている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			保護者とは定期的にモニタリングを行い、アセスメント後個別支援計画を見直している。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			ガイドラインは全職員に配布し、確認をしてもらっている。	ガイドライン研修を内部研修にて行い、もう一度周知、理解、確認を図っていく。	

	チェック項目	どちらともいえない			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ			
関係機関や保護者との連携関係	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			基本的には職務に適した職員が参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			保育所等訪問支援などを通じて連携の強化に努めている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	受け入れなし	今後、受け入れ打診があった際にはできる限りの受け入れ態勢を整えていく。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			保育所等訪問支援を通じて支援内容の確認と支援のすり合わせを行っている。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	実際に就労先を見学に行くなど本人の情報共有ができるような体制を整えている。	来年度は積極的に就労型施設へ赴くことで移行支援に向けた具体的な情報交換ができるようにしていく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			公開療育、見学会、研修等を通して他事業所とも連携を図っている。並行利用通園児についても、情報の共有を行っている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			法人内での人事交流を通して障害のない子どもと活動する機会を設定している。	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			各機関からの研修、会議案内には極力参加できるようにしている。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			口頭、電話、メール、面談を通してまふいんでの様子を丁寧に説明している。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			迎えに来た際や個別の面談を通して、自宅での対応方法をアドバイスしている。		
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に必ず行っている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			相談などがあった場合、個別の面談を設け支援の方向性を確認し、必要に応じて助言を行っている。また、その後のアフターフォローまで行っている。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			就学教育相談説明会や保護者向け研修、3月実施予定のまふいん実績報告会などを通じて支援を行っている。	
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談に関してはその都度受け入れている。苦情委員会を整備し迅速に対応している。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月まふいん便りを保護者に配布するとともにホームページにて活動を報告している。活動変更時にはメールにてお知らせしている。	
	35 個人情報に十分注意しているか	○			写真や業務上知りえたことについては職員会などで定期的に確認している。研修などを通して職員へも個人情報保護法の周知、徹底を行っている。	
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			電話やメールにてできる限りの情報共有、情報伝達に努めている。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			ナガヤタワーの住人の方と季節の行事などを行なっている。	
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練(10月に実施)、防犯訓練などを行っている。新型コロナウイルスの予防、発生時のフローチャートを作成している。	
39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練(10月に実施)、防犯訓練などを行っている。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえ ない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			人権擁護、虐待防止担当者を決め毎年研修に参加させている。又、職員会などでも周知している。今年度は法人全体での研修も実施した。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		当事業所では身体拘束は行わない。	身体拘束に関しては虐待防止委員会を通して研修などを行い、全職員の理解に繋げていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食物アレルギーに関しては事前に保護者と確認を行い、緊急時に対応する医療機関も事前に把握している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ファイルを作成し職員会で全職員と情報を共有している。また原因を追究し、改善点を詰合っている。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

【児童発達支援】

公表:令和3年 3月 29日

事業所名:児童発達支援事業所 まふいん

保護者等数(児童数)28

回収数19

割合 67%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19					今後も静と動の区別をつけ、子ども達が活動しやすいように配慮します。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19					これからも専門性を意識し、手厚い支援ができるように療育を行います。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	18				1	極力段差をなくすなどの対応を引き続き行っていきます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19					今後も活動後はアルコール消毒を行うなど感染予防を徹底した対応を行います。	
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	19					面談などで客観的に捉えた分析結果などを提示し児童発達支援計画に反映させていきます。	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19					面談時に具体的な内容を説明し、保護者の理解に努めます。	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	18				1	面談などで個別のニーズを把握し保護者にも具体的な支援内容を提示します。	
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	16	1			1	コロナの影響もあるが散歩などの外での活動が減った	感染症の動向次第ではありませんが、徐々に外での活動も増やしていきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	12		2		5		まふいんには診断がっていないお子様も多数いらっしゃいます。日頃からその子ども達も同じ活動を行っておりますので特別交流する機会は設けていません。
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19					今後も契約時や必要に応じてご説明させていただきます。	
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	19					面談時に保護者の皆様と確認しながら説明を行っていきます。	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	16		2		1		来年度はペアレントトレーニングを踏まえた研修設定を行います。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができてきているか	19						連絡アプリを導入し、更なる共通理解ができるように配慮致します。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19						今後も保護者の皆さまに寄り添った支援を行うことができるように致します。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11		5		3	先生たちと話す機会が少ない	送迎などで顔を合わす機会が少ない保護者の方にも電話や連絡帳アプリでまふいんでの様子が伝わるように致します。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19						今後もなにかありましたらご相談ください。迅速にご対応致します。
	17 子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18		1				活動の様子や連絡帳アプリを活用するなど保護者の皆様との意思疎通に努めます。
18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19						ホームページやまふいん便りなどで随時情報を発信して参りますのでご確認ください。	

	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	19					ブログなどの写真掲載など必ず保護者の許可を得てから掲載するようにしています。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	16	2			1	今年度の避難訓練は10月に行いました。ブログ、まふいん便りにも掲載しておりますのでご確認ください。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13				6	市が提示しているハザードマップに基づきマニュアル作り避難訓練を毎年行っています。来年度は地域住民を含めた避難訓練を行う予定です。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	17				2	子ども達を楽しみながら療育を行っていく環境を今後も整えていきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	19					・毎回活動を工夫しており感謝している。 ・家ではできない買い物体験など実施しているので助かっている。
								ありがとうございます。スタッフ一同日頃より感謝しております。来年度も更なる1歩を目指し邁進して参ります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。



## 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表) 【放課後等デイサービス】

公表: 令和3年3月29日

事業所名: 児童発達支援事業所 まふいん

保護者等数(児童数)27

回収数 19

割合 70%

	チェック項目	はい	どちらともいえない		ご意見	ご意見を踏まえた対応
			いいえ	いいえ		
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19				今後も静と動の区別をつけ、子ども達が活動しやすいように配慮します。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	1			これからも専門性を意識し、手厚い支援ができるように療育を行います。
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	14	3	2		極力段差をなくすなどの対応を引き続き行っていきます。
適切な支援の提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画 i が作成されているか	19			学校からの宿題がないのでまふいんでの学習時間にどのような課題を行っているのかも少し明確にしたい。	面談時にどのような学習に取り組んでいるのか、個人ファイルを提示しながらわかりやすく伝えていきます。
	⑤ 活動プログラム ii が固定化しないよう工夫されているか	18	1			コロナウイルスの動向を見ながらですが、徐々に外での活動も増やしていきます。
	⑥ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	17	2			まふいんには障害のない子ども達も通所しております。その際には同じ空間で同じ活動を行っております。
保護者への説明等	⑦ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19				今後も契約時にご説明させていただきます。
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	17	2			連絡アプリを導入し、更なる共通理解ができるように配慮致します。
	⑨ 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	3			送迎時や面談などで育児に関することを聞くとともに具体的な助言を行います。
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	12	5	2		来年度は保護者同士の連携が図れるように保護者研修後の懇談会などの体制を整えていきます。
	⑪ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	17	2			今後もなにかありましたらご相談ください。迅速にご対応致します。
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	2			活動の様子や連絡帳アプリを活用するなど保護者の皆様との意思疎通に努めます。
	⑬ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	19				ホームページやまふいん便りなどで随時情報を発信して参りますのでご確認ください。
非常時等の対応	⑭ 個人情報に十分注意しているか	19				ブログなどの写真掲載など必ず保護者の許可を得てから掲載するようにしています。
	⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	17	2			今年度の避難訓練は10月に行いました。ブログ、まふいん便りにも掲載しておりますのでご確認ください。
満足度	⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	18	1			市が提示しているハザードマップに基づきマニュアル作り避難訓練を毎年行っています。来年度は地域住民を含めた避難訓練を行う予定です。
	⑰ 子どもは通所を楽しみにしているか	13	5	1		日々の活動内容も一方的なものばかりでなく、子ども達と対話を重ねながら社会性を育むことができるような支援を今後とも重ねていきます。
	⑱ 事業所の支援に満足しているか	19			*通所に関しては、楽しみと言うよりも、自分には必要な場所であると認識している様で、本人から「今日はまふいんだね。下校時間は〇時、待ち合わせは〇〇ね。」と言って、登校しています。 *宿題もちゃんと見てくれて活動も子供達にあったことをしてくれる。そして親にも色々アドバイスをくれ、話も聞いてもらって親子共々助かっています。	ありがとうございます。来年度も保護者の皆様と一緒に子ども達が様々な経験を通して成長していけるように努めます。

○ この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。